


アカデミック英語 No.4


英語で反論・譲歩する

—— Although・However・Admittedly を使った論証

 **今日のゴール**： 英語論述・面接で「反論を認めながらも自分の主張を強化する」譲歩+反論構造を習得する。Although / However / Admittedly / While / Even though の正確な使い分けと、「One might argue that..., but...」パターンで高度な論証文を書けるようになる。

 この授業の問い

1. なぜ「反論を認める」ことが論述を強くするのか？
2. Although と However の文法的・論理的な違いは何か？
3. 「Admittedly」を使うと何が変わるのか？

 譲歩+反論の論理構造 なぜ反論を認めると主張が強くなるのか

反論を無視すると「都合の良い面しか見ていない」という印象を与える。反論を先に認めてから「それでも自分の主張が正しい理由」を示すことで、①公平な視点を示せる ②反論への回答が組み込まれた強い主張になる ③採点者・面接官に「論理的思考力がある」と印象づけられる。

採点者の視点

採点者はここを見ている —— 英語・反論・譲歩表現で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しい内容を書いても、論理の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

英語・反論・譲歩表現では、*Although/However*の使い分け根拠の理解が答案の質を大きく左右します。

② 英語・反論・譲歩表現で採点者が見ているポイント

「Admittedlyで相手の論点を認めてからHoweverで反論する構造」を示した答案が採点者評価を上げる

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「論理を俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所